

学内研究組織（2024 年度）

研究課題：「教師と学習者が主体となる共創型地理学習論の構築と実践」

教師と学習者が主体となる共創型地理学習論の構築に向けて

Toward the Co-Creation of Geography Learning by Students and Teacher

宅島 大堯（Takushima Hirotaka）

本研究の目的は、従来は教師が独占することが多かった学習目標・内容・方法・評価に関する権限を、子どもたちと共有して地理カリキュラムを共創することで、市民社会が抱える課題を子ども自身が見出し、それを追究する主体となること（地理教育の市民性教育化）における新たな次元での試みとして「共創型地理学習論」の構築をめざすことである。

2024 年度には、二つの研究協力校（高校）での実践に基づき、「共創型地理学習論」の理論的な基盤を構築するための研究を進めた。その結果、大きく以下の二つの成果を得ることができた。

第 1 に、学習方法としての「カリキュラム・ネゴシエーション」の社会科学学習への応用可能性に関する議論を進めることができたことである。「教育と学習における権力の所在についての前提を変える」ことに挑もうとする、「共創（Co-creation）」と呼ばれる概念に関する議論の源流の一つである「カリキュラム・ネゴシエーション」という概念に基づきながら、授業デザインの論理を検討することができた。その結果、「政治的主体」を育成する社会科教育としての「主体的な学び」を実現するためには、「集団主義的な社会科学学習観」から「政治的主体」を育成するカリキュラム自体を教師と学習者が「主体的」につくることの必要性が示唆された。その成果は、社会系教科教育学会 第 36 回研究発表大会において「社会科教育における『主体的な学び』の再考：学習方法論としての『カリキュラム・ネゴシエーション』の視点から」として学会発表を行い、現在、論文投稿中である。

第 2 に、学習内容としての「集合知」の社会科学学習への応用可能性に関する議論を進めることができたことである。学習内容を学習者個人との関係性だけではなく、学習集団との関係性としてとらえ直し、学習内容を社会問題に関して教師と学習者が共創し続ける「集合知」として、それを教師と学習者から成る学習集団が、教室の内外へ共有・継承する授業開発の必要性について検討することができた。その結果、教師から提供される学習内容を、学習者個人が私的な知識として所有するという個人主義的な社会科学学習から、教師と学習者が共創する「集合知」としての学習内容を、学習集団が公的な知識として共有・継承するという集団主義的な社会科学学習を創出する可能性が示唆された。その成果は、日本社会科教育学会 第 74 回全国研究大会において「『集合知』を創出する社会科学学習に向けた予備的考察：教師と学習者による学習内容の共創」として学会発表を行い、現在、論文投稿中である。

これらの理論的背景に基づき，次年度は学習目標・内容・方法・評価に関する権限を子どもたちに段階的に移行するアクションリサーチを行う予定である。